

## ①音で学ぶ英文法講座(選択) (第 2 quarter)

TOEFL でも TOEIC でも、正確な英文法習得の必要が高くなる傾向にある。正確な文法に準拠した英語表現ができなければ、ネイティブから否定的な人物評価をされてしまう。とくに、日本人が不得意とする時制、敬語・尊敬表現、副詞・形容詞の複雑な挿入、前置詞や冠詞の正確な付加などに重点をおいて個別的な指導を徹底して行う。また、正確さだけでなく、より上品な英語表現を可能とする講座でもある。当然のことながら、正確で美しく、そして教養溢れる美しい英語表現は、尊敬の対象となる。そうした英語表現を耳で聴くだけでなく、実際に出力して(shadowing)体得する。

受講者の正答率に応じて、受講期間を柔軟に設定する。基礎文法をほぼマスターしている受講者の場合には 3 ヶ月程度を、基礎文法を十全には理解していない受講者については 6 ヶ月程度の受講を想定している。

|    |                  |
|----|------------------|
| 期間 | 3 ヶ月～6 ヶ月        |
| 密度 | 3 日に 1 回程度       |
| 場所 | メールによる解答提出と正答送信  |
| 義務 | 期日までに提出          |
| 評価 | 自己採点→評価→課題提案→再提出 |

## ②長文(童話・民話・寓話)聴読講座(選択) (第 2quarter～第 4 quarter + 1 week)

欧米の初等教育を経た者であれば誰でもが知っている著名な童話の音声ファイルを聴き、登場人物、登場動物、社会背景、歴史的背景、教訓等について考える講座。予め著名な童話・児童文学の朗読ファイルを配賦し、繰り返し聴読して課題に答える。ここでも、単に英語力を強化するだけではなく、提起された題材から、欧米諸国における歴史、社会動態、人々の暮らし、人と人との関係性、道徳律、思想、教訓、革新、社会変化、文化、芸術等を学ぶことで、われわれの世界の基盤に関わる知識を体得し、社会への理解力を高めることに寄与させたい。

ポピュラーな童話・民話・寓話を選んだのは、そうした題材が欧米人の会話の中で頻繁に登場するからである。題材は全てプロの朗読家による臨場感溢れる朗読音声であり、何度も聴くことで正しい発音、抑揚(elocution)等を体得させる。また、原著に掲載されている挿絵を配賦することで、画像イメージ把握と言語表現力向上との相乗効果も期待する。回数は少ないが、SF ラジオドラマの音声も配賦する。かつての SF 小説・ドラマを聴くことで、科学、技術、商品・サービス等の発展を知るとともに、イノベーションを生み出す創造力、構想力、感受性等についてもその向上を期待する。

長文聴読は、本質や主旨を選別的に把握する能力、論理性、構造的な理解力等の培養にも役立つし、持続力、耐性の強化にも貢献する。

提供する長文音声ファイルは、受講者の能力に応じて選別する。

|    |                  |
|----|------------------|
| 期間 | 1 ヶ年(全 40 回)     |
| 密度 | 1 週間に 1 回程度      |
| 場所 | メールによる解答提出と正答送信  |
| 義務 | 期日までに提出          |
| 評価 | 自己採点→評価→課題提案→再提出 |

## Reading Session

### ①英字新聞速読講座(選択)(第 3 quarter)

Economist、Financial Times、New York Times、Washington Post、Wall Street Journal 等に掲載された注目記事を速読し、日本語に翻訳させるとともに、記事から学ぶ点、記事の背後にあるもの、記事への批判等を英語で記述させる。この講座でも、単に英語力のみならず、グローバルな社会・経済問題への関心を高め、知識を重層化させ、一流のビジネスマンに不可欠な知性を身に付かせることも目的とする。

同時に、同じネタについての邦字新聞と海外の新聞との比較も試みる。同じ社会事象を対象としながら、わが国のマスコミと海外の報道陣とでは記事の内容に大きな懸隔がある場合が少なくない。それらの比較を通じて、新しい考え方、視点、着眼点、掘り下げ方を学んでいく。

また、受講者の英文「意見」については、facebook 等にも掲載させ、一般の評価を得るとともに、世界の読者との議論を通じて人的交流を深めるとともに、ディベート能力の向上をはかっていく。

|    |                             |
|----|-----------------------------|
| 期間 | 6 ヶ月                        |
| 密度 | 1 週間に 1 回程度                 |
| 場所 | メールによる解答提出と正答送信、facebook 投稿 |
| 義務 | 期日までに提出                     |
| 評価 | 自己採点→評価→課題提案→再提出、一般読者評価     |

## ②文学作品を原語で読む(選択) (第 2 quarter～第 3 quarter)

誰でも知っている著名な文学作品(原語)の PDF 版を配賦し、提起された設問に解答させる講座。知的所有権の関係から、配賦する原著は著者死亡から 50 年以上経た作品に限定する。また、一部の作品については、プロの朗読家が録音した音声ファイルも利用する。加えて、作品を原作とした映画 DVD を貸し出し、原著と映画作品との違いについても論点とする。問題をより深く掘り下げ、感受性を研ぎ澄まし、背景の社会状況、歴史的背景、登場人物、人間関係等、さまざまな要因に着目しつつ、原著にみられる美しい英語表現を学ぶ。

また、こうした文学作品を原語で読むことは、世界の人々に尊敬される深い教養を体得することにも繋がる。たとえビジネス・シーンとは言え、それは究極的には人々との関係性であり、当事者の知的教養・見識が決定的に重要な意味をもつ。Shakespeare を原語で読むことによって、多様な言葉の使い分け、metaphor、韻の効果的な活用、品位あるユーモア、人間関係の機微等に接することができる。

|    |                       |
|----|-----------------------|
| 期間 | 6 ヶ月～1 年              |
| 密度 | 1 ヶ月に 1 作品程度          |
| 場所 | メールによる解答提出と感想・推敲・正答送信 |
| 義務 | 期日までに提出               |
| 評価 | 自己採点→評価→課題提案→再提出      |

## Writing Session

### ①自己発信ニュース(選択) (第 2 quarter～第 4 quarter)

わが国における最新のニュースを紹介し、それに解説、批判、学習点、解決提案等を付加し、SNS(facebook を想定)に英文で掲載する。選択するニュースは可能な限り特定のジャンルに限定する。知的所有権を尊重し、記事そのままの英訳掲載は不可とする。

近年、世界のマスコミでは日本が登場するシーンが大幅に減少している。Times でも Washington Post でも、あるいは New York Times でも、ほぼ毎日中国に関する情報が報道されているが、日本に関するそれは 1980 年代の 5 分の 1 程度まで減少してきている。それは、日本の社会・経済的注目度の減少を意味しているのであるが、他方において日本の情報発信力の低下も関係してきていると思われる。「内向き」になっているのは、何も若者だけではない。今や、日本そのものも情報発信力が萎み始めていると考えられる。

ここで活用する SNS への個人登録は、全て英語に限定し、friend 登録、fellow 登録も全て非日本人とする。個人のページも英語で記載し、message の相互交換も被日本語を義務づける。できるだけ頻繁に comment、写真等を掲載し、日本の有益な情報を発信するとともに friends との情報交換の環を拡げる。

|    |                        |
|----|------------------------|
| 期間 | 1 カ年                   |
| 密度 | 毎日ないしは隔日程度             |
| 場所 | SNS(新アカウント)            |
| 義務 | 1 週間に 1 回以上の状況報告を厳守する。 |
| 評価 | 参照数、trackback 数        |

## Vocabulary Session

### ①仕事で使えるキーワード講座(選択) (第3 quarter～第4 quarter)

一般的なビジネス・シーンにおいて高い頻度で使われる用語・熟語・文について、その応用例文を含めて習得する講座。ここでは、ビジネス・経済用語だけではなく、さまざまなビジネス・シーンで使われる用語、表現法、文法などを構造的に理解することをネライとしている。いかに専門的用語を暗記したとしても、それを的確に、かつ効果的に使えなければ意味がない。④ビジネス最新用語講座で学んだ用語を、実際の場面を想定して効果的に駆使できるようにする。

アウトプット学習を重視し、用語の応用的活用を会話、ビジネス・メール、ビジネス文書等の手段を用いて自ら作成してみる。期間的な制約から語彙を高い頻度で使われるものに限定するが、一流の国際ビジネスマンとして認知され得るスマートな英語表現に欠かせない語彙を自由に駆使できるようにする。

ユニット毎に音声ファイルを送信し、解答させるとともに、課題と関連した用語、およびその用例文を段階的に覚え、使えるようにする。

|    |                     |
|----|---------------------|
| 期間 | 5 ヶ月                |
| 密度 | 1 週間に 1unit         |
| 場所 | メールによる出題→解答提出→正答の送信 |
| 義務 | 期日までに提出             |
| 評価 | 自己採点→評価→課題提案→再提出    |

## Speaking & Conversation

### ① 中学英語でできる基礎英会話講座(能力別選択) (第 1 quarter～第 2 quarter)

日本の中学校で習得する基本英語・語彙力で一般的な日常英会話ができるようになるための基本日常英会話講座。

英語力 screening で、TOEFL\_ibt で 25 点以下の受講者、および参加希望者を対象とする。

音声 CD を配賦し、受講者は hearing、shadowing、speaking を繰り返す。配賦する CD は、10 枚程度であるが、能力別にコンテンツを厳選する。また、希望者には、実際のシーンを収録した動画 DVD も配賦する。ここでも、徹底したアウトプット学習を重視する。自分の声で発音し、その発音を自らの耳でチェックすることは listening 能力の向上にも役立つ

この講座での学習を完了すれば、単独での英語圏諸国への旅行が可能となるが、ネイティブとの立ち入った会話まで可能になるわけではない。あくまでも基礎的な日常会話をマスターするものであり、他の英語講座での学習を基礎的に補完するものである。コンテンツは学習段階毎に構造化されており、1 ヶ月に 1 回程度の学習達成度確認テストの結果に応じて会話水準を柔軟に変えていく。語彙範囲は、日本の大学受験(6,000 語)程度とする。

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 期間 | 3 ヶ月～6 ヶ月                 |
| 密度 | 毎日の自己学習                   |
| 場所 | 音声ファイルを収録した CD の配賦による自己学習 |
| 義務 | 1 ヶ月間隔での課題について期日までに提出     |
| 評価 | 自己採点→評価→課題提案→再提出          |

## ②英語固有表現講座(選択) (第 3 quarter～第 4 quarter)

日本人がなかなかできない英語に固有の表現を学ぶ講座。状況や場面、会話相手等を想定しながら、どのような場面で、どのような人と話す際にもっとも適切な表現であるのか、英語に固有な表現法をそしてより上品で知性を感じさせる英語表現ができるようにする。たとえば、「逃げる」という日本語の英語表現には、通常の会話レベルに限っても 40 通り程の表現語句がある。それらのどれを使っても同じ表意・文意になるわけではない。少なくとも、worm out (of)、get away、escape、make away、hop the stick、take to、bolt、zex、elusive、try to back out of、等の微妙なニュアンスの違い、場面ごとの使い分け、相手による使い分けができないとネイティブとの会話は表面的なそれに終止してしまう。

また、British English、American English、Irish English、Australian English、等における表現の違いについても学ぶ。とくに、King's English に包含されている英語の上品で蘊蓄に富んだ表現、American English に見られるユーモアある表現とカリエゾンなどを学習することで、表現の知的な使い分けができるようにする。

この講座でも耳と口とを重視する。ネイティブの固有表現をネイティブの発音、イントネーションで体得してもらう。

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 期間 | 6 ヶ月                      |
| 密度 | 1 週に 1 度、音声ファイルとチェック問題を送信 |
| 場所 | メールによる解答提出と正答の送信          |
| 義務 | 期日までに提出                   |
| 評価 | 自己採点→評価→課題提案→再提出          |



## ①会話力(表現力)鍛錬塾(能力別選別) (第2 quarter～第4 quarterのうち2 quarter)

少人数制(3～5名)のリアル版講座。教室を利用し、1回が3～4時間のレッスンを10～12回実施する。

日本人がなかなかできない英語に固有の表現を学ぶ。状況や場面、会話相手等を想定しながら、どのような場面で、どのような人と話す際にもっとも適切な英語表現であるのかを習得する。そして、より上品で知性を感じさせる英語表現ができるようになる講座。また、British English、American English、Australian English、等における表現の違いについても体得する。

これまでの英語教育にない手法を採用し、日本人が不得意とする中間母音、リエゾン、アクセント、イントネーション、エロキューション等を徹底して学び、ネイティブに近い口唇筋肉、口蓋発声、プレス、スピードを体得する。日本語固有の5母音発声によって固定された発声習慣を破壊的に修正し、英語の中間母音が発声できる口、舌、口腔の使い方を習得する。日本語で文意を考え、それを英語に返還して発言するという会話プロセスを徹底して排除し、固有な英語表現を瞬時に使えるようにする。

加えて、状況に応じた表現の使い分け、つまり1つの英語表現について3～5通りのバリエーションを使い分けられるようにするとともに、世界で通用するビジネスパーソンに不可欠な知性的で品位ある表現を身につけてもらう。また、外来カタカナ語の弊害を取り除くことにも努める。外来語の多用によって、海外では通用しない語句を使うことで正しいコミュニケーションが阻害されることが少なくない。誤った外来日本語使用の習慣を是正することはかなり困難であるが、ネイティブが首を傾げるような語句の利用を可能な限り排除していきたい。

また、ネット利用の英語表現講座や発音講座などの自己学習の達成度をここで実際にチェックし、徹底した個別指導によって弱点を矯正する。事前にテキストを配賦せず、その都度、直訳が困難な日本語会話表現、応用例シートを配賦し、正しい発音、イントネーション、アクセント、リエゾン、プレス等がネイティブ並のスピードで表現できるように繰り返しアウトプットし、段階的にその速度を引き上げていく。1回の実習で習った英語表現を次回までに完全に修得するよう自宅等での復習を義務づける。

全体で500程度の固有英語表現、そのバリエーションを含めて2500個程度の英語表現文を自由に駆使できるようにするとともに、pronunciation、speaking、intonation等の弱点を矯正する。

極めて手間暇のかかる講座であるが、高い成果が得られるように受講者を厳選するとともに、クラス内での相互機制、相互扶助の大切さも学んでもらい、学習する組織形成の要点を掴むことも副次目的としている。

|    |                      |
|----|----------------------|
| 期間 | 6ヶ月                  |
| 密度 | 1週間に1回、1回が3～4時間      |
| 場所 | 研修会場(受講者3～5名)        |
| 義務 | 欠席・遅刻厳禁、事前学習・復習の義務づけ |
| 評価 | その都度リアルタイムに評価        |

## ②BBD ネイティブ・ゲスト・セッション(指定参加) (第 2 quarter～第 4 quarter のうち随時)

BBD その他の機会に海外からゲスト・スピーカーを招聘し、参加者と親しく討議してもらう講座。ゲストは、UK、USA、India、Australia、New Zealand 等の英語を母国語とする人々だけではなく、その他の言語圏でも英語によるコミュニケーションが可能な方々をお呼びする。その多くは、MBA 等の大学院在学者、ビジネスパーソン、特定のジャンルで世界的に活躍している人々で、しかも日本の社会・経済、文化、芸術等に高い関心を持ち、継続的に日本人との関係をもちたいと希望している人を招聘する。

特に重視するのが、本講座に参加する日本人とほぼ同世代であり、昨今の日本人には見られなくなった大胆な未来志向を有している人々との国際的交流である。こうした人々との交流を通じて、世界の若者がどのような夢をもち、どのように未来像を描いているのかを知るとともに、自己課題の一層の豊富化を考える契機を提供する。

来日する外国人については、home stay 等を斡旋するが、可能な限り講座に参加する日本人との cohabitation を推奨する。彼らの旅費、滞在費等についてはケース毎に考慮するが、一部は HuSEEC が支援負担する。とくに優秀で魅力ある外国人で、日本企業での就業を希望している者については、参加企業に呼びかけて就業を斡旋するとともに旅費・滞在費等の一部負担をお願いする。

|    |                   |
|----|-------------------|
| 期間 | 不定                |
| 密度 | 滞在期間中の数日          |
| 場所 | 研修会場、その他          |
| 義務 | BBD 等交流の場への積極的参加  |
| 評価 | 自己評価、HuSEEC 側での評価 |

### ③英語学力検証への旅(選択)(随時)

本講座参加者のうち一定の英語能力水準に達し、短期間(1週間～1ヶ月)の海外旅行を希望する者について、魅力ある渡航目的があり、単独での journey が可能であるという条件付きで、渡航・滞在費用の一部を HuSEEC が負担するという制度。

単なる観光旅行ではなく、未来に繋がる目的を自ら描き、渡航期間全般の行動予定を自ら設計し、設計された予定を自ら遂行する「旅」である。渡航先は英語圏に限定しないが、本講座での学習を活かすという主旨から、英語による交流が可能な国家・地域とすることが望ましい。

参加者は、出発から帰国までの全ての行動について単独で、つまり誰の助けも借りないで設計し、目標を達成する。交通機関や宿泊施設等についても、エイジェントを利用せずに自ら主体的に booking する。また、参加者は、日々の行動や感じたこと、得られた成果等について「双方向性 SNS」に投稿し、帰国後にその総括報告書を提出する。

渡航にあたってのチャレンジ目標については、参加者の自由裁量に委ねるが、HuSEEC 側の事前承認を義務づける。ただし、身体的・経済的危険が予測されるような渡航先や行動予定については HuSEEC 側はその管理・監督責任を負わない。また、渡航目的が企業の営業目的や社会的活動と有機的な関連性をもつ場合には、参加企業側からの支援をお願いするケースもある。

|    |                          |
|----|--------------------------|
| 期間 | 1週間～1ヶ月                  |
| 場所 | 英語による交流が可能な諸国・地域         |
| 義務 | 双方向 SNS への投稿と完了成果報告書(英文) |
| 評価 | 自己評価、HuSEEC 側での評価        |